

がんばろう！長岡復興プロジェクト

—地域とつくる長岡デジタル今昔マップ—

新潟県長岡市立表町小学校 教諭 竹田道則

t-m@orion.ocn.ne.jp

1 実践の目的

- ビデオ製作、デジタルマップ製作は、子どもたちの問題解決能力を育てる。
- 今と昔を比較しながら、これからの長岡を創造することで、地域の復興につなげる。
- デジタルマップのWe b化、製本、DVD化することで、デジタルマップが学習成果として十分活用できる教材となることを明らかにする。

2 実践の概要

(1) 主な実践の概要

「社会科や総合における地域学習（取材）で得た現在の情報」と「昔の地域の様子をお年寄りに取材したこと」をビデオクリップにし、今昔デジタルマップをつくった。製作過程で、随時評価していただき、昔と今の長岡を比較しながら、これからの長岡を子どもたちと地域の方と共に考えていった。できあがった「デジタルマップ」は、ネット上に公開した。子どもたちと地域の方と共に昔と今の長岡のよさを考え、再発見する中で、これからの長岡を考え、地震に負けずに前向きに生きていこうとする気持ちを育てることができた。

(2) 実践のポイント

- 今の地域（長岡）のよさを取材によって明らかにし、地域のお年寄りに昔の地域（長岡）のよさを話していただく。子どもたちの取材と比較し合い、これからの長岡について考える。昔から変わらぬ長岡のよさを再認識し、発展する長岡をお年寄り子どもたちが一緒に学ぶことで地域の復興につなげること。
- 取材活動、ビデオ作成、マッピングなど、交流による情報の視覚化によって地域への新しい気づきが生まれ、地域のよさを再発見できること。
- ビデオ製作、デジタルマップ製作により、解決しなくてはならない課題を明確化させることで、子どもたちの問題解決能力を育てることができること。
- 地域の方を対象にしたデジタル今昔マップによって、相手意識を明確にした表現力、プレゼンテーション能力を育てることができること。



3 成果と課題の概要

(1) 明確な相手意識が表現力・プレゼンテーション能力を育てる

番組構成を考える過程において編集長（担任）と話し合うことで、子どもたちは視聴者を意識した表現方法を考えることができたようになった。また、自己評価や相互評価、外部からの評価を活用することで、子どもたち自身今後の課題を明らかにすることができた。

一方で、ビデオクリップを作るには予想していた以上に多くの時間を要し、当初計画していたおりに製作することができなかった。

(2) 課題が明確なビデオ製作は問題解決能力を育てる

ビデオ製作は、企画・撮影、編集など様々なプロセスを経る。自分たちの伝えたいことをどのような構成で番組にするのか、企画書を作成するようにした。また編集長（担任）に企画の内容を分かるように説明するようにした。このように、子どもたちが自分の考えを明らかにし、自分の力で企画を立てるようにしたことで、自分の考えを、筋道を立てて企画に仕上げる力、考えを相手に分かりやすく説明する力が身に付いた。

(3) デジタルマップをDVD化すること

ビデオクリップをDVDに保存し、子どもたち一人一人、地域の方に配付した。DVD化することで、クラス全員でつくったビデオクリップの成果を共有することができた。また、地域を調べれば調べるほど、自分自身が地域の方から支えられていることを理解していった。地域の方と地域のよさを再発見することもできた。そして、地域の一員として精一杯学習したこと（地域について真剣に考えている姿）を地域に示すことが、復興につながったと考える。

